



0199

海軍公報

第四八三五號

昭和十九年十月二十六日(木)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一八二號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム

第九十七號驅潛艇

内令提
要登載

右本籍ヲ大湊警備府ト定ム

第二百三號驅潛特務艇

昭和十九年十月十四日

海軍大臣

内令第一八三號

昭和十八年内令第一八三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月十四日

内令提
要登載

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第八十六號(横)」ノ次ニ

「第九十七號(横)」ヲ加フ

大湊防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第九十六號(大)」ノ次ニ

「第二百三號(大)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二〇頁)

内令第一九二號

海防艦

内令提
要登載

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

第六十四號海防艦

第六十三號海防艦

第八十一號海防艦

第二百七號海防艦

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

佐世保鎮守府在籍

海防艦 生名

第六十四號海防艦

舞鶴鎮守府在籍

第六十三號海防艦

第二百七號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

第一百十三號輸送艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

第九號哨戒艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

昭和十九年十月十五日

海軍大臣

秘海軍公報 第四八三五號 昭和十九年十月二十六日

一四一五

内令第一一九三號

第四百一十一號

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

昭和十九年十月十九日

海軍大臣

要登載

内令兵第七八號(軍極秘海軍公報第二二號(乙配付)ニ掲載)

内令兵第七九號(軍極秘海軍公報第二七號(乙配付)ニ掲載)

内令兵第八〇號

直結發電機一一〇型(假稱)ヲ兵器ニ採用シ直結發電機一一〇型ト呼稱ス

昭和十九年十月二十五日

海軍大臣

要登載

官房需第二五七號

昭和十九年官房需第一四一號中左ノ通改正ス

昭和十九年十月二十五日

海軍大臣

第一號(イ)ノ二中「蒲團覆ハ之ヲ交付セズ」ヲ「外套、雨衣及蒲團覆ハ之ヲ交付セズ但シ外套及雨衣ハ貸與品トシテ之ヲ貸與ス」ニ改ム

第二號ニ左ノ如ク加フ

(ホ) カラーノ交換期限ハ下士官(軍藥兵曹ヲ除ク)ハ毎年五

月一日一個共ノ他ノ者ハ毎年五月一日二個トス

(ホ) 患者ニ貸與スル單長白衣及帶ハ褐青色ノモノヲ用フルコトヲ得

同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 還納受入等ノ特例

(イ) 特設海軍軍需部又ハ海軍軍需部ト隔絶ノ地ニ在ル部隊ノ兵備品取扱主任ハ還納ヲ受ケタル被服物品中使用見込アルモノハ海軍給與令施行細則第一百三條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ新品若ハ再用古品ニ組替フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ記號ノ一隅ニ(再)ヲ押印シ記號ノ附替ヲ省略スルコトヲ得

附則

下士官及兵並ニ豫備員候補者ニ現ニ交付中ノ外套及雨衣ハ之ヲ還納セシメ別ニ貸與品トシテ受入ノ手續ヲ爲スモノトス

(參照) 昭和十九年官房需第一四一號ハ被服物品交付等ノ特例ナリ(會計法規類集二卷二六六ノ二頁)

○ 通 牒

經豫第三號ノ二四八

昭和十九年十月二十四日

海軍省 經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

日本銀行代理店設置ノ件通知

國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ北海道千歳郡「千歳町」ニ設置シ之方事務ヲ取扱フコト相成候

航本機密第一三二〇三號

昭和十九年十月二十五日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長 殿

川西製榮發動機二一型試運轉用「プロペラ」ニ關スル件照會

川西製左記試運轉用「プロペラ」ハ榮一一型用「プロペラ」ニ付名稱訂正ノ上榮一一型用トシテ使用相成度

記

川西製榮二一試運轉用プロペラ 計四九個

註文番號	製造番號	數量	納入場所
内空第三五四五號	自四四三二一至四四三二八	一〇個	横補
内空第三五四六號	自四四三二九一至四四三三八	一〇個	吳補
内空第三五四七號	自四四三三九一至四四三三五	一〇個	大村補
内空第三五四八號	自四四三三六一至四四三三五	一〇個	横補
内空第三五四九號	自四四三三六一至四四三三八	四個	吳補
内空第三五〇〇號	自四四三三六一至四四三三八	五個	大村補

○雜 款

○集會所設置
佐世保水交社大村航空基地集會所ヲ十月七日大村航空基地内ニ設置セリ
(佐世保水交社)

○移轉
九州海軍航空隊ハ十月二十日宮崎航空基地ヨリ鹿屋航空基地ニ移轉セリ
追テ當隊ヘノ赴任轉勤者ニ對スル家族移轉料支給上ノ勤務地ハ從來通宮崎ナリ爲念
(九州海軍航空隊)

○事務開始
第四十八號海防艦艇裝員事務所ヲ十月十八日大阪市住吉區柴谷町四四藤永田造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ
第三百三十四設營隊ハ十月十八日舞鶴海軍施設部第一教導設營班内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去
海防艦生名艇裝員事務所ハ十月十五日之ヲ撤去セリ

○開隊及殘務整理
當隊十月一日現地ニ於テ開隊セリ

秘海軍公報 第四八三五號 昭和十九年十月二十六日

第一〇二航空基地隊、第七〇五海軍航空隊ハ同日附解隊殘務整理ハ左ニ於テ之ヲ行フ

第百一二航空基地隊 馬來海軍航空隊本隊内(彼南)

第七〇五海軍航空隊 馬來海軍航空隊コトラヂヤ派遣隊内

(馬來海軍航空隊)

○殘務整理

第百四航空基地隊殘務整理ハ東印海軍航空隊内ニ於テ之ヲ行フ

第二百三十一設營隊及第二百三十四設營隊ハ十月一日附解隊殘

務整理ハ第百一海軍施設部内ニ於テ之ヲ行フ

(第百一海軍施設部)

○本日軍極秘海軍公報第二八號(乙配付)發行セリ

配付先

各司令部、各航空廠、同支廠、各航空隊、航空技術廠、同

支廠

秘

0203

海軍公報 第四八三六號

昭和十九年十月二十七日(金)
海軍大臣官房

○令 達

達第三五五號

第百二海軍工作部ニ於テ建造中ノ魚雷艇九隻ニ左ノ通命名ス

昭和十九年十月二十五日

海軍大臣

自第百五十七號魚雷艇(九隻)
至第百六十五號魚雷艇

内令第一一九四號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

昭和十九年十月二十日

海軍大臣

伊號第二百三潛水艦

内令提
要登載

内令第一一九五號

自魚雷艇第三十三號軍艇

至魚雷艇第四十六號軍艇

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム

自魚雷艇第二百二十六號軍艇

至魚雷艇第二百四十五號軍艇

右本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

自第八百四十九號魚雷艇

要登載

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

自第五百三十八號魚雷艇

至第五百五十三號魚雷艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定ム

昭和十九年十月二十日

海軍大臣

内令第一一九六號

潛水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十月二十日

海軍大臣

内令提
要登載

第三十三潛水隊ノ項中「呂號第百九、呂號第百十二」ヲ削ル
第三十四潛水隊ノ項中「呂號第四十七」ノ下ニ「呂號第百九、呂號第百十二」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第一一九七號

海防隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十月二十日

内令提
要登載

秘海軍公報 第四八三六號 昭和十九年十月二十七日

一四一九

海軍大臣

第十一海防隊ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

- 第十二海防隊 第十四號、第十六號、第三十八號、第四十六號
- 第二十二海防隊 笠戸、千珠、滿珠、三宅

(内令提要卷一、七二頁参照)

内令第一一九八號

特設掃海隊編制中左ノ通改定セララル

昭和十九年十月二十日

海軍大臣

第四十五掃海隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、一五〇頁参照)

内令第一一九九號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月二十日

海軍大臣

鎮海防備隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

- | | | |
|----|--------|---|
| 高聳 | 第二十之出丸 | 佐 |
| 雄佛 | 第八丸 | 佐 |
| 海軍 | 武六 | 丸 |
| 隊 | 藏甲 | 丸 |
| | | 丸 |
| | | 丸 |
| | | 丸 |
| | | 丸 |

(内令提要卷一、四八ノ二九頁参照)

内令第二二〇〇號

横須賀鎮守府所管

特設監視艇

慶祥丸

同

和風丸

同

筑前丸

同

第十二興漁丸

右特設監視艇ト改ム

昭和十九年十月二十日

海軍大臣

内令第二二〇一號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定令提

昭和十九年十月二十日

海軍大臣

船舶名	特設艦船種別	所管
漁船 第一昭陽丸		
同 伍號高官丸		
同 第五たか丸		
同 第二福整丸	特設監視艇	横須賀鎮守府
同 第三富正丸		
同 第五旭丸		
同 神鷹丸		

内令第二二〇二號
特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十月二十日

海軍大臣

内令提
要登載

第五監視艇隊ノ項特設砲艦及特設監視艇名ノ欄中上部ニ「長巡丸」ヲ、「第二號富士丸」ノ下ニ「武藏丸、岩手丸、白鳥丸、ふさ丸、大東丸」ヲ加ヘ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

喜久丸、第一高知丸、第六鹿丸、
第一親船丸、源勝丸、漁勝丸、
第五幸神丸、大孝丸、第二全勝丸、
第十八號住吉丸、第一號大晴丸、第十二事代丸、
第二振興丸、第十五振興丸、新山丸、
第五萬榮丸、第五號鹿島丸、第六勇喜丸、
第十號大黒丸、第一昭陽丸、ほ號高宮丸、
第五九か丸、第二福整丸、第三富正丸、
第五旭丸、神鷹丸

(内令提要卷一、一五二頁参照)

内令第二一〇三號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正

昭和十九年十月二十日

海軍大臣

内令提
要登載

横須賀防備隊ノ項特設監視艇ノ欄「白鳥丸(横)」及「ふさ丸(横)、岩手丸(横)、武藏丸(横)、大東丸(横)」ヲ削ル
伊勢防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「慶祥丸(横)、和風丸(横)」

秘海軍公報 第四八三六號 昭和十九年十月二十七日

筑前丸(横)、第十二興漁丸(横)ヲ加ヘ特設監視艇ノ欄「慶祥丸(横)、和風丸(横)、第十三興漁丸(横)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第二二〇四號

特設船舶警戒部處務規程中左ノ通改正ス

昭和十九年十月二十日

海軍大臣

内令提
要登載

第六條表中	小楢	船舶警戒部小楢支部	ヲ
小楢	船舶警戒部小楢支部	ニ改ム	
新潟	船舶警戒部新潟支部		

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ四頁参照)

内令第二一〇五號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月二十日

海軍大臣

内令提
要登載

特務艇、魚雷艇第四百六十九號型ノ項中「第八百三十八號、第八百三十九號、第八百四十號、第八百四十一號、第八百四十二號、第八百四十三號、第八百四十四號、第八百四十五號、第八百四十六號、第八百四十七號、第八百四十八號」ヲ削ル
同第四百七十四號型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第五百三十八號型

- 第五百三十八號、第五百三十九號、第五百四十號、第五百四十一號、第五百四十二號、第五百四十三號、第五百四十四號、第五百四十五號、第五百四十六號、第五百四十七號、第五百四十八號、第五百四十九號、第五百五十號、第五百五十一號、第五百五十二號、第五百五十三號、第五百五十四號、第五百五十五號、第五百五十六號、第五百五十七號、第五百五十八號、第五百五十九號、第五百六十號、第五百六十一號、第五百六十二號、第五百六十三號、第五百六十四號、第五百六十五號、第五百六十六號、第五百六十七號、第五百六十八號、第五百六十九號、第五百七十號、第五百七十一號、第五百七十二號、第五百七十三號、第五百七十四號、第五百七十五號、第五百七十六號、第五百七十七號、第五百七十八號、第五百七十九號、第五百八十號、第五百八十一號、第五百八十二號、第五百八十三號、第五百八十四號、第五百八十五號、第五百八十六號、第五百八十七號、第五百八十八號、第五百八十九號、第五百九十號、第五百九十一號、第五百九十二號、第五百九十三號、第五百九十四號、第五百九十五號、第五百九十六號、第五百九十七號、第五百九十八號、第五百九十九號、第六百號、第六百一號、第六百二號、第六百三號、第六百四號、第六百五號、第六百六號、第六百七號、第六百八號

同百一號軍型ノ項中「第百一號」ノ上ニ「第三十三號、第三十四號、第三十五號、第三十六號、第三十七號、第三十八號、第三十九號、第四十號、第四十一號、第四十二號、第四十三號、第四十四號、第四十五號、第四十六號、」ヲ、「第百六號」ノ下ニ「第百七號、第百八號、第百九號、第百十號、第百十一號、第百十二號、第百十三號、第百十四號、第百十五號、第百十六號、第百十七號、第百十八號、第百十九號、第百二十號、第百二十一號、第百二十二號」ヲ、「第百二十五號」ノ下ニ「第百二十六號、第百二十七號、第百二十八號、第百二十九號、第百三十號、第百三十一號、第百三十二號、第百三十三號、第百三十四號、第百三十五號、第百三十六號、第百三十七號、第百三十八號、第百三十九號、第百四十號、第百四十一號、第百四十二號、第百四十三號、第百四十四號、第百四十五號」ヲ加フ

(内令提要卷三、四三頁参照)

官房空機密第二六九九號
當分ノ間横須賀海軍航空隊司令ハ同隊ニ供給ヲ受ケタル兵器ヲ左記條件ニ依リ試作又ハ多量生産機ノ兵裝、艙裝、參考用トシテ民間會社ニ一時貸與スルコトヲ得

昭和十九年十月二十五日

海軍大臣

記

一 荷造、運搬等ニ要スル費用ハ總テ貸與ヲ受クルモノノ負擔トス
 二 亡失、毀損等ノ場合ハ民間會社ヲシテ辨償セシムルモノトス
 三 機密保持ヲ嚴守セシムルモノトス

官房機密第二三號ノ一三四

昭和十九年十月二十六日

海軍大臣

各鎮守府司令長官殿

兵器簿ノ件通達

潜水艦兵器簿機關長主管ノ部中左記ノ通改正ス

記

類別	指定種類	品名	總數	補用數	適用艦別
諸要具之部	追加	二式ヒューズ栓 四五A	個	三〇	伊號第八、伊十型、伊十六型、伊十七型、伊五十二型、伊五十四型
				三〇	伊百五十三型、伊號第百六十二型、伊百六十五型、伊百七十五型、伊百七十六型、伊百七十七型、伊百七十八型、伊百七十九型、伊百八十型、伊百八十一型、伊百八十二型、伊百八十三型、伊百八十四型、伊百八十五型、伊百八十六型、伊百八十七型、伊百八十八型、伊百八十九型、伊百九十型、伊百九十一型、伊百九十二型、伊百九十三型、伊百九十四型、伊百九十五型、伊百九十六型、伊百九十七型、伊百九十八型、伊百九十九型、伊百一〇〇型

○通牒

經物第一一九號

昭和十九年十月二十五日

秘海軍公報 第四八三六號

昭和十九年十月二十七日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件通知

昭和十七年經物第一三五號第一第四項ニ依ル首題ノ件別紙ノ通ニ有之候

(別紙ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

運本機密第一五四號

昭和十九年十月二十日

海軍運輸本部長

關係各廳長殿

海上輸送請求手續ニ關スル件照會

中央配船輸送計畫ニ依リ海上輸送ヲ要スベキ人員物件ハ自今當分ノ間左記ニ依リ請求ノコトニ取計相成度

追テ運本機密第一號(昭和十八年八月十二日海軍公報掲載)

ハ自然消滅ノ義ト了知相成度

記

一 海上輸送請求票様式別紙

二 近海輸送並ニ外地方面ヨリノ選送物件輸送ハ中央各部局ヨリ直接運輸本部ニ、外地向(臺灣ヲ含ム)輸送ハ戦力補給部ヨリ運輸本部ニ請求スルヲ例トス

三 請求票送付數三通(内一通ハ運輸本部ニテ所要事項記入ノ上返却)

(別紙添)

上返却

(別紙添)

○ 雜 款

○ 開隊

當隊十月一日千歲航空基地ニ開隊事務ヲ開始セリ
追テ轉勤者ハ北海道千歲郡千歲町ニ（旅費ハ家族移轉料ヲ除ク外前金拂）赴任セシメラレ度
（北東海軍航空隊）

○ 事務開始

第三百十九設營隊ハ十月十五日吳海軍施設部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

第三千二百十設營隊ハ十月二十日佐世保海軍施設部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○ 事務所撤去

第六十三號海防艦艇裝員事務所ハ十月十五日之ヲ撤去セリ

軍艦葛城艦艇裝員事務所ハ十月十五日之ヲ撤去セリ

第六十六號海防艦艇裝員事務所ハ十月二十一日之ヲ撤去セリ

○ 本日海軍公報發行セズ

(運本機密第一五五四號別紙)

(昭和十九年十月二十七日秘海軍公報)

請求番號

昭和 年 月 日

海上(外地海)輸送請求票 (部局名)

責任者名
連絡電話番号

品名種別	數量數	重量(匁)	容積(立米)	宛(行)先	搭載(乗船)準備完成期日	希望地	希望地	運本輸送豫定

0209

(註)

1. 物件、人員ハ各別紙トス(人員ノ場合重量、容積ハ不要)
2. 請求番號ハ部局毎ニ一貫番號トシ「航本1」「艦本1」「戦補1」ノ如クス
3. 品名種別
品名ハ單ニ兵器彈藥又ハ需品等品種ノミニ依ルコトナク主要品名毎ニ記註ス但シ小額ニ對シテハ品種ニ依リ記註ス種別ハ補充交代員、新兵、補充兵又ハ軍屬、乗者等ニ適宜區分ス
4. 搭載(乗船)準備完成期日ハ荷造又ハ發送(乗船)準備完了シ直ニ艦船ニ搭載(乗船)可能ナル期日トシ其ノ不確實ナルモノハ括弧内ニ入ル
5. 近海トハ内地間、内地ニ朝鮮中支以北間ヲ謂ヒ、外地トハ内地ニ臺灣以南(南支ヲ含ム)各地間ヲ謂フ
6. 請求票ハ三通送付ノコトトジ一通ハ運本輸送豫定記入ノ上返却ス
7. 輸送請求ハ急ヲ要スルモノノミトシ各部局ニ於テ嚴選スルモノトス
8. 本請求票ハ運輸本部ノ配船輸送計畫ニ依ルモノノミトシ、各鎮管下内ノ輸送ニシテ各鎮ニテ賄フベキモノハ之ニ依ラザルモノトス

0210

秘

海軍公報 號外

○懲罰

懲罰言渡書

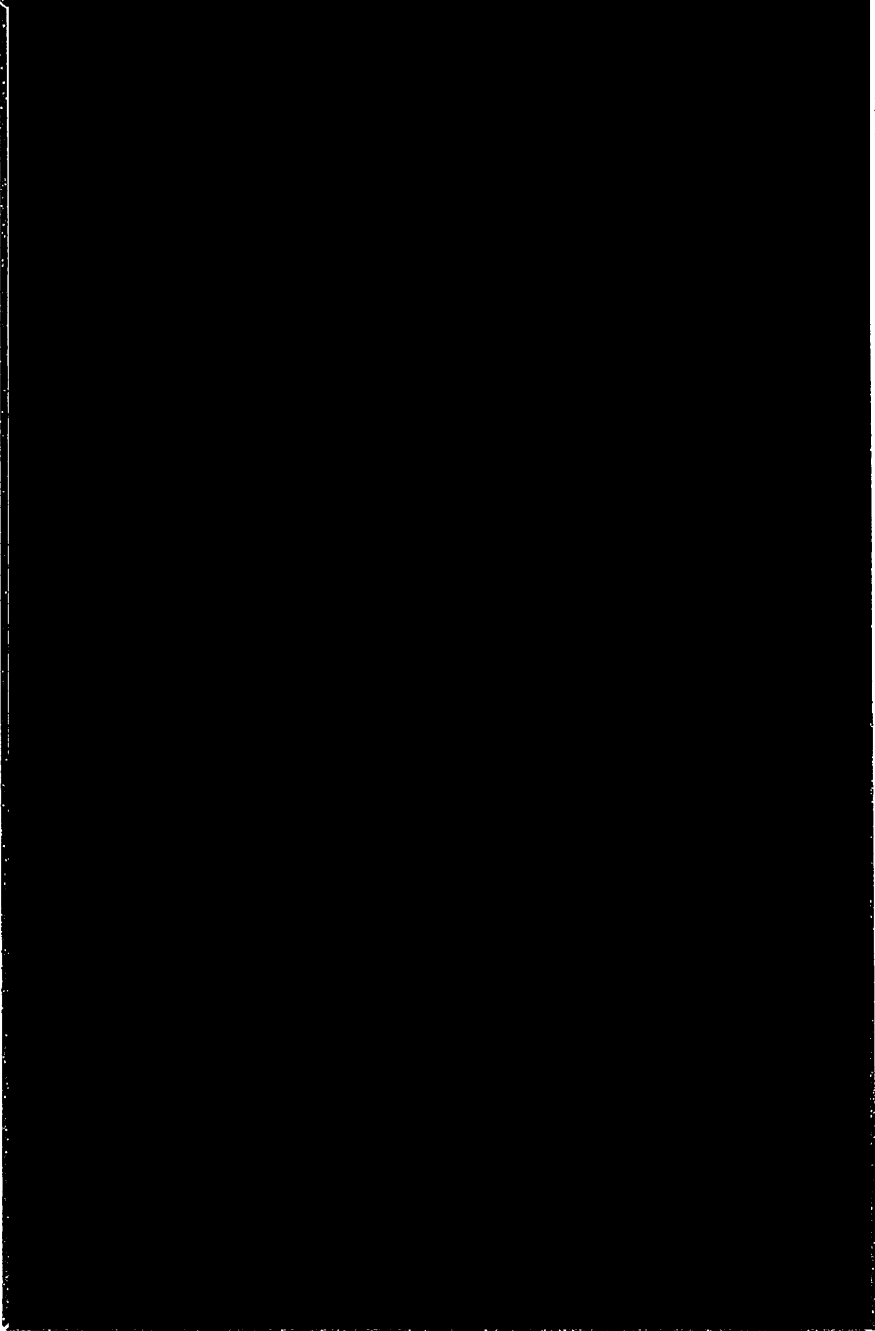
秘海軍公報 號外

昭和十九年十月二十七日(金)
海軍大臣官房

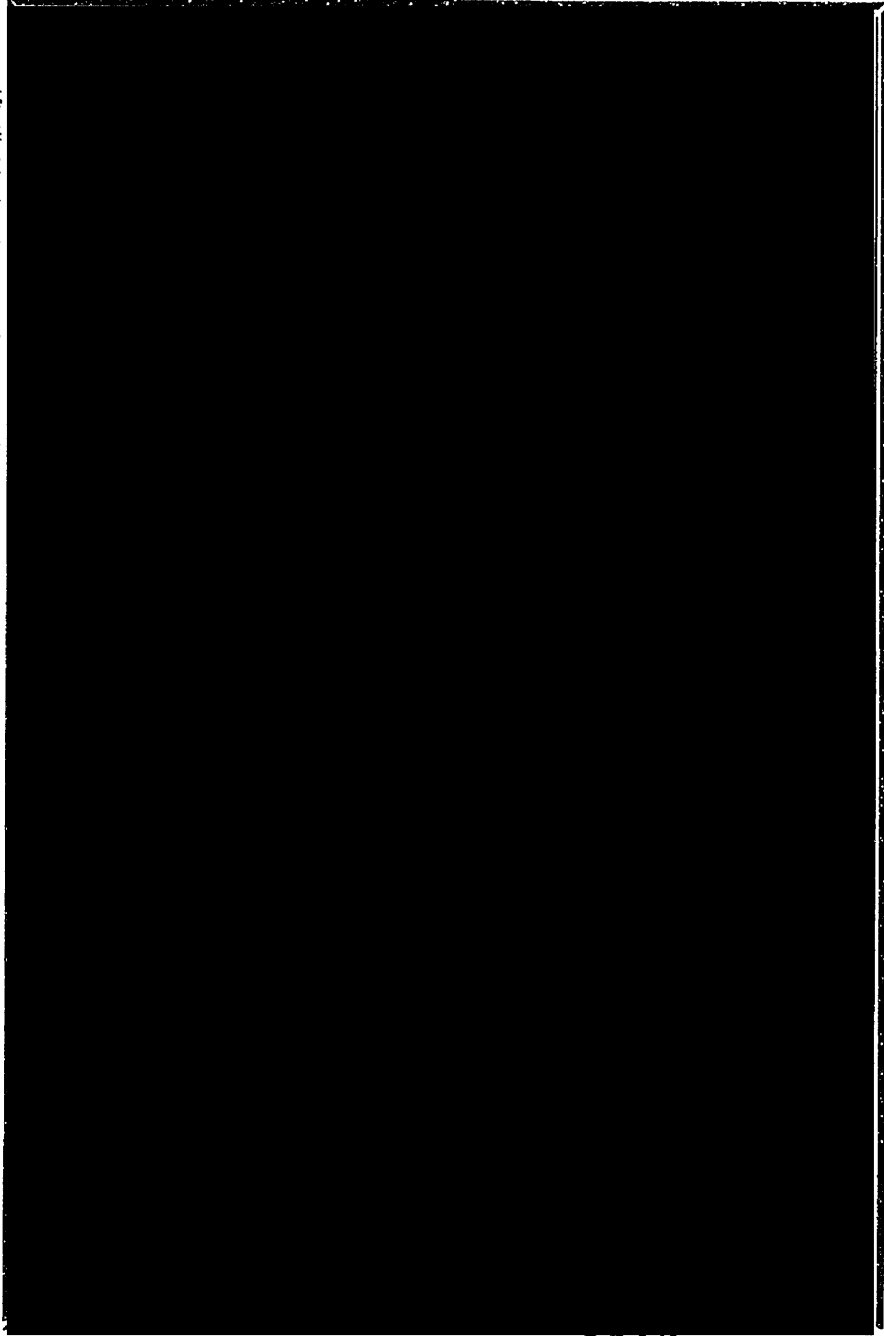
0211

秘
海
軍
公
報

號
外



秘海軍公報
號外



0212

秘
海
軍
公
報
特
號
外

四

0213

秘海軍公報 號外

五

0214

秘
海
軍
公
報
號
外

六

0215

0216

秘
海
軍
公
報

號
外

七

0217

秘
海
軍
公
報
號
外

八

0218

秘
海
軍
公
報
號
外

九

海軍公報 第四八三七號

昭和十九年十月二十八日(土)
海軍大臣官房

命令 達

官房教機密第四四六號

昭和十九年十月十四日

海軍大臣

横須賀鎮守府司令長官殿

海兵團新兵教育訓練ノ實情調査ニ關スル件
訓令

横須賀鎮守府司令長官ハ首題ノ件左記ニ依リ施行スベシ

記

一 目的

海兵團新兵教育期間ニ於ケル日常生活一般ノ實情ヲ調査シ以テ教育效果發揚ニ資スルト共ニ健兵對策上ノ改善資料ヲ得ルニアリ

二 主要調査項目

- (イ) 新兵ノ日常作業時間並ニ勤務生活狀況ノ統計的調査
- (ロ) 各種作業ノ消費「カロリー」
- (ハ) 主要作業前後ニ於ケル血糖値
- (ニ) 耐寒對策
- (ホ) 新兵體育指導ニ關スル研究
- (ヘ) 新兵體格ニ關スル研究

秘海軍公報 第四八三七號 昭和十九年十月二十八日

(ト) 視力保持増進對策其ノ他養護一般
(チ) 日課ノ適否檢討並ニ同標準案ノ作製

三 委員及委員附

委員長ヲ武山海兵團長トス
委員及同附ニハ武山海兵團、海軍航空技術廠、第一海軍衣糧廠、横須賀海軍軍需部、横須賀海軍砲術學校、横須賀海軍病院ノ職員及其ノ他必要ナル部下職員ヲ充ツルノ外海軍省軍務局、海軍省兵備局、海軍省人事局、海軍省教育局、海軍省軍需局、海軍省醫務局、海軍省經理局、海軍軍醫學校並ニ海軍經理學校職員ヲ加フルモノトス

四 調査終了期日

昭和十九年十二月末日

五 報告

調査終了後速ニ成果並ニ所見ヲ附シ報告スルモノトス

六 經費

請求ヲ俟テ別途配布ス

官房經機密第一七一〇號

昭和十八年官房經機密第六四四號中左ノ通改正ス

昭和十九年十月二十七日

海軍大臣

一四二五

別表ヲ別表ノ如ク改ム

(別表添)

(参照) 海軍機密會計法規類集二二四頁

○ 雜 款

○司令部移轉

第七潜水戰隊司令部ハ八月十一日横須賀潜水艦基地隊内ニ移轉セリ

○事務開始

第三千百十設營隊ハ十月十五日吳海軍施設部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

波號第百五潜水艦艇裝員事務所ヲ十月二十日神戸市川崎造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○解隊

第百十二防空隊ハ八月五日附解隊第十七警備隊ニ編入セラレタリ

○本日海軍公報發行セズ

(官房経機密第一七二〇號別表)

備考	豫備生徒	當該指定配屬	同上	旅費	其 ノ 他 ノ 給 與
	豫備學生 <small>旅順方面特別根據地隊ニテ教育ノ者</small> <small>右以外ニテ教育ノ者</small>	關係各海兵團	旅順方面特別根據地隊		
	法務見習尉官	横須賀海軍砲術學校	同上		
	技術見習尉官	濱名海兵團			
	主計科見習尉官	海軍經理學校			
	軍醫、藥劑、齒科醫見習尉官	海軍 (海軍醫學校分隊)			

(昭和十九年十月二十八日祕海軍公報)

0221



海軍公報

第四八三八號

昭和十九年十月三十日(月)

海軍大臣官房

○令 達

達第三五七號
海軍兵進級規則中左ノ通改正ス

昭和十九年十月二十八日

海軍大臣

第四條ノ二第一項第二號中「三月」ヲ「二月」、「九月」ヲ「七月」ニ改ム

附則

本達ノ改正ニ依リ進級ニ必要ナル期間ヲ經過スルニ至リタル者ハ昭和十九年十一月一日之ヲ進級セシムルモノトス

内令第一二〇六號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

第三十六號海防艦

海防艦 新

要登載

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

第三十六號海防艦

佐世保鎮守府在籍

海防艦 新

秘海軍公報 第四八三八號 昭和十九年十月三十日

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年十月二十一日

第六十六號海防艦

海軍大臣

内令第一二〇七號

右本籍ヲ大阪警備府ト定ム

昭和十九年十月二十二日

第二百四十一號驅潛特務艇

海軍大臣

要登載

内令第一二〇八號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス
昭和十九年十月二十二日

海軍大臣

要登載

紀伊防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百二十一號(阪)」ノ次ニ「第二百四十一號(阪)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二〇頁参照)

内令第一二〇九號

海防艦 屋

要登載

一四二七

0222

<p>右本籍ヲ佐世保領守府ト定メラル 佐世保領守府在籍 海防艦 屋 久 第三百三十八號海防艦</p>	<p>右警備海防艦ト定メラル 昭和十九年十月二十三日 海軍大臣</p>	<p>内令第一二一〇號 右本籍ヲ吳領守府ト定メラル 吳領守府在籍 海防艦 第三百十二號海防艦</p>	<p>右警備海防艦ト定メラル 第十四號輸送艦 第十五號輸送艦 右本籍ヲ舞鶴領守府ト定メラル 昭和十九年十月二十四日 海軍大臣</p>	<p>内令第一二一一號 右本籍ヲ吳領守府ト定ム 第二百二十七號驅潛特務艦 内令提 登載</p>
<p>昭和十九年十月二十四日 海軍大臣</p>	<p>内令第一二一二號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年十月二十四日 海軍大臣 佐伯防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百五十五號(吳)」ノ次ニ 「第二百二十七號(吳)」ヲ加フ (内令提要卷三、四八ノ二〇頁參照)</p>	<p>内令第一二一三號 特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス 昭和十九年十月二十五日 海軍大臣 特務艇、魚雷艇第五百一十一號型ノ項中「第五百五十六號」ノ下ニ 「第五百五十七號、第五百五十八號、第五百五十九號、第六十號、 第六十一號、第六十二號、第六十三號、第六十四號、 第六十五號」ヲ加フ (内令提要卷三、四三頁參照)</p>	<p>内令第一二一四號 昭和十六年内令第一二一七號艦船用内火機械呼稱中左ノ通改正ス 内令提 登載</p>	<p>内令第一二一四號 昭和十六年内令第一二一七號艦船用内火機械呼稱中左ノ通改正ス 内令提 登載</p>

0223

昭和十九年十月二十五日

海軍大臣

一 海軍制式ノ艦艇主機械中「六十三號内火機械」ノ次ニ

「六十四號」十型、二サイクル單 一五〇 三〇〇 三菱東京機
内火機械 五型 動無氣噴油 器製作所

ヲ加フ

「七十一號内火機械」ノ原設計所ノ欄



海軍艦政本部 三改ム

(内令提要卷三、二〇九頁参照)

官房經機密第一七一號

昭和十八年官房經機密第四一二號中左ノ通改正ス

昭和十九年十月二十七日

海軍大臣

「大東亞戰爭中雇員及傭人ニ支給スベキ扶助金ニ關シ」ヲ「大東亞戰爭雇員傭人扶助金支給特別」ニ改メ「大東亞戰爭雇員傭人扶助金支給特別」ノ題名ヲ附ス

第一條第一項末尾ニ「本令中特ニ定メタル者ノ扶助金ニ付亦同シ」ヲ加フ

第二條ノ二 前條ノ規定ニ依リ算定シタル遺族扶助料ノ額一萬圓ヲ超ユルトキハ之ヲ一萬圓トス

第八條第一號ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ戰地ニ於テ敵ノ上陸ニ依ル戰闘ニ於テ奮戦シ戦死シタル

者ニシテ所屬長官ニ於テ功績特ニ顯著ナリト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第九條ヲ削ル

別表備考中第一號ヲ第二號トシテ左ノ一號ヲ加フ

一 戰地ニ於テ敵ノ上陸ニ依ル戰闘ニ於テ奮戦シ戦死シタル

者ニシテ所屬長官ニ於テ功績特ニ顯著ナリト認メタルモノニ對シテハ扶助金乘率ヲ三十割ト爲スコトヲ得

(参照) 昭和十八年官房經機密第四一二號ハ大東亞戰爭中雇員及傭人ニ支給スベキ扶助金ニ關スル件ナリ

海軍機密會計法規類集三二二頁

○ 通 牒

經給第二〇三號

昭和十九年十月二十七日

海軍省人事局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

戰死囑託者、雇員及傭人ノ待遇附與並ニ報酬

又ハ給料ノ増額又ハ増給ニ關スル件通牒

「アツツ」「タラワ」「マキン」「クエゼリン」「ルオット」「ニギギニア」(附近諸島ヲ含ム)「ソロモン」諸島及「マリアナ」諸島ニ於ケル敵ノ上陸ニ依ル戰闘ニ於テ奮戦ノ結果戦死シタル囑託者、雇員及傭人ニシテ所屬長官ニ於テ功績特ニ顯著ナリト

0224

認メタルモノニ對シテハ戰死ノ日附ニ遡リ海軍囑託者待遇及報酬内規 海軍戰時特例給與規則第二十一條及昭和十八年官房經機密第四十二號第三條乃至第六條ノ内ノ規定ニ拘ラズ左記ニ依リ處理スルコトニ定メラレ候

記

- 一 囑託者(部内限制任官以上ノ待遇者ヲ除ク)、雇員及傭人ハ全員部内限制任官待遇トス
- 二 囑託者(無報酬又ハ二時ノ報酬ヲ受クル者ヲ除ク)、雇員及傭人ハ戰死當時ノ報酬又ハ給料ノ十割以内ヲ増額又ハ増給スルコトヲ得
- 三 前二號ニ該當スル囑託者、雇員及傭人ノ所屬スル廳(廳在ラザルトキハ當該廳ノ所屬シタル廳又ハ艦船部隊殘務整理班以下之ニ同ジ)ノ長ハ所屬長官(委任官待遇囑託者ニ在リテハ所屬長官經山海軍大臣)ニ對シ其ノ功績顯著ナルモノニ付待遇附與竝ニ増額又ハ増給ノ中ヲ爲スモノトス但シ所屬長官必要アリト認メタルトキハ當該囑託者(委任官待遇囑託者ヲ除ク)、雇員及傭人ノ待遇附與竝ニ増額又ハ増給ヲ令達スルコトヲ得
- 四 待遇附與竝ニ増額又ハ増給セラレタル者ニ對シ戰死ノ日以後支給スベキ給與ハ當該囑託者、雇員及傭人ノ所屬スル廳ノ所管領守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部(所管ノ領守府又ハ警備府ナキモノハ海軍省經理局以下之ニ同ジ)ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

五 前號ニ該當スル者ノ所屬スル廳ノ給與掌理者ハ左ノ事項ヲ記載シタル給與通牒ヲ前號ノ規定ニ依ル經理部ニ送付スルモノトス

(イ) 報酬又ハ給料(増額又ハ増給前ノ報酬又ハ給料共)氏名
(ハ) 戰死ノ年月日
(ホ) 戰死ノ日以後支給スベキ給與ノ種類及金額(既ニ支給済
ノモノアルトキハ其ノ種類及金額)

(ニ) 遺族又ハ給與受領代理人ノ住所、氏名
(ホ) 報酬又ハ給料等家族下渡中ノ者ニ付テハ其ノ下渡應竝ニ
家族下渡中ノ給與ノ種類及金額

六 經理部ハ前號ノ給與通牒ヲ受ケタルトキハ正當受領者ニ對シ速ニ之ヲ支給ノ手續ヲ爲スモノトス

七 前各號ニ該當スルモノニ付テハ官房經機密第一七一號ニ依リ改正セラレタル昭和十八年官房經機密第四一二號ヲ遡及適用スルモノトス

艦本機密第一一號ノ一八三三六
昭和十九年十月二十四日

關係各廳長殿
大東亞戰爭中海軍ニテ武装セル船舶用兵器ニ
關スル件照會

首題ノ件ニ關シテハ自今左記ノ通處理ノコトニ定メラレ候
記

供給先

- (イ) 一般船舶
 - 特設船舶警戒部トシ警戒隊乗船シアラザルトキハ特設船舶警戒部ヨリ當該船長ニ供用スルモノトス但シ外戰部隊ノ根據地隊又ハ特別根據地隊ヨリ警戒隊ヲ派遣シタルトキハ當該派遣元トス
- (ロ) 特設ニ非ザル海軍徵備船舶
 - (一) 指揮官ヲ置カレタルトキハ當該指揮官トス
 - (二) 海軍警戒隊乗船シ指揮官ヲ置カレザルトキハ特設船舶警戒部トス
- (ハ) 指揮官及警戒隊共ニ乗船セザルトキハ船長貸與トス
 - 一般船舶ニ陸軍警戒隊乗船シタルトキ及陸軍徵備船舶特設船舶警戒部トシ其ノ期間(陸軍)船舶司令部ニ貸與ノコトトシ特設船舶警戒部ニテ整理スルモノトス
- (ニ) 其ノ他
 - (イ) 初度搭載ノ兵器中工事を要スルモノハ工事擔任官タル兵備品取扱主任工事を要セザルモノハ前號(イ)乃至(ハ)ノ區分ニ依リ供給スルモノトス
 - (ロ) 工事擔任官タル兵備品取扱主任ハ工事成次第其ノ取扱ニ係ル兵器ヲ兵備品使用者ニ引渡シ兵器供給票ニ領收ノ旨記載捺印セシメ之ヲ兵備品使用者ノ屬スル兵備品取扱主任ニ送付シ引繼ニ代フルモノトス
 - (ハ) 一般船舶及陸軍徵備船舶ノ警戒隊ノ長警戒隊乗船シ在ラザルトキハ船長又ハ特設ニ非ザル海軍徵備船舶ノ警戒隊ノ

- (ニ) 長ヲ兵備品使用者トス兵備品使用者兵器ヲ受領シタルトキハ兵備品取扱主任ヨリ供用セラレタルモノトシテ其ノ取扱ニ係ル兵器ノ整備保管ニ任ジ亡失、棄却、毀損、彈藥、爆雷等ノ消耗其ノ他之ニ移動ヲ生ジタル場合ハ速ニ之ヲ關係兵備品取扱主任ニ報告スルモノトス
- (三) 兵備品使用者兵備品取扱主任ト隔在シ若ハ急速處理ヲ要スルトキハ兵備品使用者ノ發シタル假證書ニ依リ處理ヲ了シ事後兵備品取扱主任ノ證書ト引換ヘ又ハ之ニ記名捺印ヲ得ルモノトス
- (ホ) 所屬又ハ船種變更等ノ爲供用替ヲ要スルトキハ兵器經理規程第二十四條ノ手續ニ準ジ處理スルモノトス
- (ヘ) 本兵器ニ對スル證書ニハ所掌部(隊)名ノ下ニ船舶名ヲ併記シ其ノ寫ヲ兵備品使用者ニ交付スルモノトス
- (ト) 兵備品使用者交代ノ場合ハ前項ノ寫ニ依リ現品ノ授受ヲ爲シ相互記名捺印シテ其ノ責任ヲ明カナラシムルモノトス
- (チ) 搭載兵器ノ修理並ニ消耗彈藥等ノ補給ニ關シテハ十八年五月十八日軍務一機密第三九九號申進ニ依ルモノトス
- (リ) 前各號ニ規定セラレザル事項ハ兵備品ニ關スル規定ニ依ルモノトス

附則

左記申進中本照會ト抵觸スル部分ハ本照會ニ依リ自然消滅トス

- 一 昭和十八年四月 九日 艦本機密第一號ノ四四八七
- 一 同 年八月十七日 同 第一號ノ一一〇九九

秘海軍公報 第四八三八號 昭和十九年十月三十日

○雜 款

○事務開始

第百八十八防空隊ハ十月二十日宮崎市宮崎海軍航空基地内ニ於テ事務ヲ開始セリ

第五十五號海防艦艇裝員事務所ヲ十月二十一日横濱市鶴見區辨天町十七日本鋼管株式會社鶴見造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

波號第百六潜水艦艇裝員事務所ヲ十月二十一日三菱重工業株式會社神戸造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

海防艦新南艦裝事務所ハ十月二十一日之ヲ撤去セリ

○轉勤者旅行先

第一四一海軍航空隊、偵察第三飛行隊、偵察第四飛行隊、戰鬥第八〇四飛行隊ヘノ赴任者ハ宮崎縣都城市都城航空基地（日豊線都城驛下車）ニ向ケ旅行セシメラレ度

（第一四一海軍航空隊）

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報

第四八三九號

昭和十九年十月三十一日(火)
海軍大臣官房

○令 達

達第三五八號

海軍徵用事務規程中左ノ通改正ス

昭和十九年十月三十日

海軍大臣

第四條但書中「徵用變更ニ依リ所屬スベキ官衙又ハ從事スベキ場所ガ從前ノ所屬官衙又ハ從事ノ場所ノ所在都道府縣以外ニ在ル場合及」ヲ削ル
別紙様式第四號及様式第五號ヲ削ル
(諸例則卷四、三六〇ノ一四ノ七頁參照)

達第三五九號

艦需品定額表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月三十日

海軍大臣

水雷長主管
機雷長主管

區別	類別	番號	品名	數稱	摘要	記事
追加	消耗品	二	一五 襲撃演習機 記録紙	枚	襲撃演習機 一三四型用	新規設定
同	同	一六	三式測的盤 記録紙	個	三式測的盤 一二型用	同

○通 牒

軍需衣第七號ノ三四七

昭和十九年十月二十七日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

軍裝品配給ニ關スル件通牒

當分ノ間軍裝品ノ配給ニ關シテハ左記ニ依ルモノト了知相成度

記

一 現在配付中ノ軍裝品切符ノ有効期間ヲ無期トシ昭和二十年

ニハ新ニ發行セザルモノトス

二 新ニ採用ノ見習尉官及新任官者ニ對シテハ初度準備定數ニ

限リ配給スルモノトス

三 前號該當ノ者アル時ハ所轄長又ハ之ニ準ズル者之ヲ取纏メ

可成速ニ最寄經理部(東京水交社管轄ハ第一海軍衣糧廠)ニ

通知スルモノトス

四 遭難者及特別事情アル者ハ經理部ニ於テ實情ニ即スル如ク

取扱フモノトス

經線第五號ノ三四六

昭和十九年十月三十日

海軍省經理局長

秘海軍公報 第四八三九號 昭和十九年十月三十一日

一四三三

0228

關係各廳長殿

雇員傭人勤續加給支給人員調ノ件照會

昭和十五年十月九日經豫第五號ノ一七七照會首題ノ件當分ノ間
省略差支無之

(參照) 會計法規類集二卷四四三頁

○雜 款

○十一月月中ニ於ケル海軍關係員ニ對スル諸講習實施豫定表

番號	種 別	場 所	期 日	員 數	記 事
一	船長對潛警戒	校	二、三、六、三	約二五	第三次第二回
二	船長機關長對潛警戒 船團運動、淡煙焚火	校	二、三、六、三	約三〇	第二次第二回
三	船舶通信士電探	校	二、三、六、三	約二五	第三次第三回
四	船長船團運動通信規程	校	二、三、六、三	約三〇	第一回
五	運轉士、機關士、應急術(一運一機)	校	二、三、六、三	約三五	第三次第一回
六	運轉士見張術(二運)	校	二、三、六、三	約三五	第三次第一回
七	甲板長、操機長、船匠、應急、見張一般	校	二、三、六、三	約三〇	第一回
八	同 右	校	二、三、六、三	約三〇	第二回
九	高等船員水測(一、二運)	校	二、三、六、三	約三〇	第四次第一回
一〇	普通船員水測	防舞、佐伯各 横、紀伊各 防及潛校	二、三、六、三	各約三〇	第七次第一回

一	普通船員水測	防舞、佐伯各 横、紀伊各 防及潛校	二、三、六、三	各約五〇	第七次第二回
二	船舶機關長、操機長、淡煙焚火	工 機 校	二、三、六、三	約三〇	第四次第三回
三	改T A型船舶機關員重油吹燃	工 機 工	二、三、六、三	約三五	第二次第一回
四	汽機船舶機關員回籠焚火	工 機 校	二、三、六、三	約四〇	第二回

(海軍省教育局)

○給與通牒送付先ノ件

本艦へ轉勤者ニ對スル給與通牒送付先ニ關シテハ從來區々ニシテ事務處理上極メテ支障有之候條自今左記ニ依リ處理相成度

記

本紙送付先

東京海軍監督官事務所資金前渡官吏 (堂通)

寫送付先

海防艦奄美艦裝員長 (堂通)

追テ日本鋼管鶴見造船所内艦船裝裝給與處理ハ東京海軍監督官事務所ニ付爲念 (海防艦奄美艦裝員事務所)

○轉勤者赴任先

海軍兵學校(舞鶴分校)ノ職員ニ發令セラレタルモノハ江田島本校ニ着任スルコトナク直接同分校ニ赴任セシメラレ度

(海軍兵學校)